



2024年2月14日

各位

会社名 G F A株式会社

代表者名 代表取締役 片田 朋希

(スタンダード市場 コード番号：8783)

問合せ先 経営企画部 部長 高士 隼人

(TEL 03-6432-9140)

営業外収益及び営業外費用の計上と通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2024年3月期（2023年4月1日～2024年3月31日）第3四半期に営業外収益及び営業外費用を計上するとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、2023年5月13日に公表した業績予想を下記のとおり修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 営業外収益の計上

当社子会社であるプレソフィア株式会社において産業雇用安定助成金を2023年12月に受領したこと等から、営業外収益の助成金等収入として累積7百万円を計上しております。

当社完全子会社である株式会社CAMELOTにおいては2023年7月に発生いたしました機材の故障等に伴う保険金として、2023年12月に11百万円を受領し、受取損害保険金として計上いたしました。

また当社子会社である株式会社フィフティーワンが加入していた生命保険を解約しており、解約に伴い、15百万円を保険解約返戻金として2023年10月に受領し、営業外収益に計上いたします。

2. 営業外費用の計上

2022年9月28日付「株式会社ヴィエリスからの一部事業譲受及び新たな事業の開始に関するお知らせ」にて既報のとおり、美容脱毛専門サロン「キレイモ」事業を譲受直後において精算行為を行うなかで発生した仮払金について、株式会社ヴィエリスに対して支払いを求めておりましたが、回収の見込みが難しいと判断し、2024年3月期第3四半期において雑損失として11百万円を計上することといたしました。

3. 2024年3月期通期連結業績予想数値の修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

(単位：百万円、円・銭)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	5,199	△260	△321	△394	△7.53
今回修正予想(B)	4,169	△1,797	△1,996	△1,880	△27.70

増減額(B-A)	△1,030	△1,537	△1,675	△1,486	
増減率(%)	△19.8	-	-	-	
(参考)前期実績 (2023年3月期)	2,353	△1,927	△2,068	△2,254	△63.37

(注)新株予約権の行使による発行済株式数の増加に伴い、1株当たり当期純利益については、以下の株数により算出しております。

2023年12月31日時点の期中平均株式数：53,987,448株

4. 2024年3月期における業績予想修正の理由

2023年5月13日公表時においては新型コロナウイルスの影響も5類への引き下げもあって、本格的にアフターコロナへと突入し、日常生活が正常化することで特に前年度には飲食事業や宿泊事業を中心に需要の戻りがあったことで、当社グループの既存事業を適切に推進することも見込みつつ、継続的に利益を獲得できる体制の構築を目指し、新規事業における施策も軸に2024年3月期の売上回復に努めています。

そのなかで、当社の金融サービス事業における美容脱毛サロンを運営するキレイモ事業につきまして、当社が事業取得前からの顧客に対するサービス有償化を実施し、売上及びキャッシュフローの改善を企図して取り組みも行ってきましたが、2023年11月30日付「(開示事項の経過)美容脱毛サロン事業の譲渡に関する基本合意のお知らせ(事業譲渡本契約の締結(最終合意))」において開示のとおり、株式会社ミュゼプラチナムへ当該事業の譲渡を行っております。

本件の事業譲渡については、2022年9月28日付開示「株式会社ヴィエリスからの一部事業譲受及び新たな事業の開始に関するお知らせ」の開示のとおり、当社の事業譲受における意図はあくまで自社が取得した債権の保護が主な目的であり、事業譲受の当初から事業譲渡を常に検討し、相手先を模索しているなかで、キレイモ事業と似た顧客属性を有し、且つ業界大手でもある株式会社ミュゼプラチナムが候補として上がり、当社としても本件事業譲渡後にも、当社と株式会社ミュゼプラチナムは協力的な協業体制を築いていくことから、本件譲渡する判断にも至っております。

この事業譲渡によって、これまでのキレイモ事業の譲受に伴う取得直後の店舗スタッフ人員の確保に伴う費用、賃料等の店舗運営費用及び施術用の消耗品費用などの販売費及び一般管理費の負担などが今後は軽減されますが、当社が譲受した以降には従前顧客に対する無償施術を通じて信頼の回復に努め、一定程度の成果が見えつつあり、キャッシュフローベースでは単月黒字が実現するなど、新規顧客獲得数も改善し、1件の新規を獲得した際にも施術の実施ごとに売上として計上していくため、当期の下期には売上増加も見込んでいたこともあり、売上修正に大きく起因する結果となっております。

不動産投資事業につきましても所有不動産の売却活動を実施しておりますが、直近の低金利下での不動産価格上昇で企業間を含めて不動産売却物件の情報も多く、売却物件の仕入れに注力することにシフトして、物件販売見込み収益が来期にずれ込むため修正を行っております。

またゲーム事業において、第1四半期に子会社化したクレーンゲームジャパン株式会社が運営するオンラインクレーンゲーム「クレマス」の海外展開における海外売上の見込みが海外向け配信のための海外ユーザーへの販促マーケティングや海外専用ブース展開による海外専用の景品や演出企画の準備に時間を要することから修正しております。これら影響もあって、売上高の予想が△1,030百万円下回る見込みです。

営業利益に関しては、上記の売上高減少によるものに加えて、ナイトクラブを運営する株式会社CAMELOTにおいて店舗への来店が顕著であるなど市況は改善の見込みでもありましたが、円安の影響により、国外で生産されるアルコール飲料などを中心に原価の高騰の影響は引き続き残り、また各種イベント実施における集客が予想以上に伸びず、イベント開催に係る経費等が大きく嵩む状況で推移しています。

またガルヒ就労支援サービス株式会の展開する就労支援事業において、日本各地の加盟店と連携し、地域に根差した就労支援事業所の開設を進めておりますが、当初想定していたFC(フランチャイズ)施設の出店予定先における各自治体との調整が想定よりも遅れていることが起因しています。

当期における2023年8月14日付の「営業損失の計上に関するお知らせ」及び2023年11月14日付の「特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ」で開示しております減損損失などの影響等も受け、営業利益の着地は当初予想から△1,537百万円の赤字額が拡大する見込みです。

経常利益につきましては△1,675百万円、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても△1,486百万円、それぞれ前回予想を下回り赤字額が拡大する見込みです。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上